

平成 22 年 6 月 9 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006 ～ 2009

課題番号：18320064

研究課題名（和文）琉球諸方言要地アクセントの緊急調査研究

研究課題名（英文）Urgent Research on the Accents of Major Ryukyuan Dialects

研究代表者

上野 善道 (UWANO, Zendo)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：50011375

研究成果の概要（和文）：与那国方言は基本的に A, B, C の 3 系列からなる 3 型アクセントであるが、その中で A と C は文節末尾が重音節か軽音節かで対立の実現の仕方が異なるという特異な体系になっていること、そしてそれが、先行研究との比較により、音節の軽重を条件とする音調変化が起こった結果であることを明らかにした。また、その世代間変化から、音調の変化は上昇・下降ともに右の方に移行することも明らかになった。これらは今後のアクセント研究にとっても大きな意味をもつ。

研究成果の概要（英文）：The Yonaguni dialect of Japanese has a three-pattern accent system (A, B, C). However, the realization of A and C depends on whether the final syllable of the accentual unit is heavy or not. When the final syllable is light, we have to add another free word or a particle ending in heavy syllable to make the distinction appear. This peculiarity can be explained by the following change: The loss of the final falling pitch has occurred only in the final light syllable. The change has not occurred in the final heavy syllables, where the old pitch patterns are preserved. Both pitch-rise and pitch-fall are found to have moved rightward.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2007 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2008 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2009 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
総計	8,200,000	2,460,000	10,660,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：琉球方言，アクセント，体系，世代間変化，音節構造

## 1. 研究開始当初の背景

琉球諸方言のアクセントは、その体系のあり方からみても、日本語アクセント祖体系の観点からみても非常に興味深く、また意義深

いにもかかわらず、首里方言などごく一部を除いては深い記述がなされないまま消滅の危機に瀕している状況にある。緊急の調査が求められている。

## 2. 研究の目的

本調査研究は、次の3点をその目的とする。

(1) 消滅の危機に瀕している日本語諸方言、とりわけその危険度の高い琉球諸方言のアクセントを実地調査し、その体系と仕組みを明らかにする。(2) 琉球方言アクセント祖体系ならびにそれを含む日本語アクセント祖体系を考える基礎を固める。(3) 貴重な音声録音を録音保存し、できるだけ多くの資料を残す。

## 3. 研究の方法

現地を訪ね、方言アクセントをよく保存している話者を探して聞き取り調査を行なう。調査は1対1の面接調査による。調査は録音をし、方言資料の保存を図る。

## 4. 研究成果

(1) について。

① 南琉球の与那国方言を中心に記述調査を行なった。その結果、この方言は基本的にA、B、Cの3型アクセントでありながら、そのうちの2つの音調型AとCが、軽音節に終わる単独形では区別がなくなり、軽音節終わりの付属語を付けても区別がなく、重音節終わりの付属語を付けるか、自立語を続けた場合にのみ区別が現れる体系であることを明らかにした。これは、他の日本語諸方言には知られていない現象である。

また、先行世代と比較することにより、その間に音節の軽重が関与する興味深いアクセント変化が起こり、上昇・下降とも右にずれていることを明らかにした。

さらに、論文としては未発表であるが、用言活用形のアクセントも詳しく調べてある。

これらの現象は、今後のアクセント研究にとっても大きな意味をもつ。

② 北琉球に属する奄美諸方言については、和泊町方言集である甲 東哲『島のことば 沖永良部島』の全語彙について和泊町皆川方言の話者に当たってアクセントを調べた結果を音節構造別に再編成して資料編として発表した。奄美方言アクセントの詳しい報告の一つとなった。

同じく奄美諸島の徳之島浅間方言では、修飾構造に現われる半下降について調べた。これも日本語の中では初めて明らかになった現象である。また、アルファベット関連語彙や数詞の調査も行なった。おそらく奄美方言ではこの分野に関するはじめての調査ではないかと思われる。

その他、沖縄本島的那覇方言は、内間直仁・野原三義『沖縄語辞典——那覇方言を中心に——』（研究社出版）のアクセント付き項目をすべてパソコンに入力し、その電子化を終えた。今回はその検討は間に合わなかったが、次回以降の新たな研究の基礎ができた。

③ 本土方言では、日本語のアクセント史を考える上で非常に重要な意味をもつ香川県伊吹島方言について2つの調査研究を行なった。1つはこれまで報告のなかった形容詞の活用形アクセントの調査である。結果はいずれ報告を予定している。もう1つは、40年以上前に初めて本格的な調査を行なった和田実の録音テープが残っているが、それに基づいて発表した行研究を受け、新たに同じテープを聞き直してそのアクセントを報告した。

鹿児島県の3つの2型アクセント方言（鹿児島市、枕崎市、黒島大里）も整理をし、その間の異同を明らかにした。

同じく青森市方言の後部2拍複合名詞のアクセント資料もア行からワ行にいたる公刊を終えた。これを受けて、次回にそのアクセント規則を取り扱う。

④ これらの成果を海外の学会を中心に、主に英語で発表した。

(2) について。

上記の調査研究により、日本語アクセント祖体系を考える上での基礎固めをした。その成果の一部は、海外の講演などにおいて英語で発表した。

(3) について。

調査した方言に関して、すべて録音資料を残した。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計23件）

(1) 上野善道 (2010.03) 「琉球与那国方言のアクセント資料(1)」『琉球の方言』34: 1-30 (査読無)

(2) 上野善道 (2010.03) 「青森市方言後部2拍複合名詞のアクセント規則——資料編(5)——」『日本海域研究』41: 99-113 (査読有)

(3) 上野善道 (2009.12) 「句頭の上昇は語用論的意味による」『月刊言語』38/12 (特集: 言語学的探求の行方): 84-85 (査読無)

(4) 上野善道 (2009.09) 「服部音韻論の再評価」『東京大学言語学論集』28: 219-246 (査読有)

(5) 上野善道 (2009.03) 「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(9)」『琉球の方言』33: 99-123 (査読無)

(6) 上野善道 (2009.03) 「青森市方言後部2拍複合名詞のアクセント規則——資料編(4)——」『日本海域研究』40: 155-168 (査読有)

(7) 上野善道 (2009.02) 「通時的にしか説明できない共時アクセント現象——句頭の上昇と語音との関係——」『月刊言語』38/2 (特

集：ことばの変化を捉える）：74-81（日本語学会依頼講演の文字化）（査読無）

(8) 上野善道 (2008. 09) 「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(8)」『東京大学言語学論集』27: 267-307 (査読有)

(9) 上野善道 (2008. 03) 「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(7)」『琉球の方言』32: 1-40 (査読無)

(10) 上野善道 (2008. 03) 「青森市方言後部2拍複合名詞のアクセント規則——資料編(3)——」『日本海域研究』39: 101-116 (査読有)

(11) UWANO, Zendo (2007.11) "The Interpretation of Accent in Standard Japanese", in P. Calvetti & S. de Maio (eds.) *Proceedings of the Second Conference on Japanese Linguistics and Language Teaching, Naples, March 20th-22nd, 2002*: 481-490. (査読有)

(12) UWANO, Zendo (2007) "Two-pattern accent systems in three Japanese dialects", in T. Riad & C. Gussenhoven (eds.) *Tones and Tunes Volume 1: Typological Studies in Word and Sentence Prosody*, Mouton de Gruyter, Berlin & New York: 147-165. (査読有)

(13) 上野善道 (2007. 09) 「録音資料に基づくアクセント調査：香川県伊吹島方言の場合」『東京大学言語学論集』26: 115-183 (査読有)

(14) 上野善道 (2007. 07) 「方言のアクセント研究はどうなっているか」『国文学解釈と鑑賞』72/7 (特集：方言と方言研究の現況)：39-46 (査読無)

(15) UWANO, Zendo (2007.06) "Accent and Meaning", in Yoshihiko Ikegami, V. Eschbach-Szabo, A. Włodarczyk (eds.) *Japanese Linguistics: European Chapter*, Kurocio Publishers: 297-309. (査読有)

(16) 上野善道 (2007. 03) 「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(6)」『琉球の方言』31: 1-38 (査読無)

(17) 上野善道 (2007. 03) 「青森市方言後部2拍複合名詞のアクセント規則——資料編(2)——」『日本海域研究』38: 67-81 (査読有)

(18) 上野善道 (2006. 12) 「日本語アクセントの再建」『言語研究』130: 1-42 (日本語学会会長就任講演の文字化) (査読有)

(19) UWANO, Zendo (2006.11) "Accentual Changes in Progress: The Ibuki-jima Dialect", in Guido Oebel (ed.) *Japanische Beiträge zu Kultur und Sprache: Studia Iaponica Wolfgango Viereck emerito oblata*, Lincom: 169-176. (査読有)

(20) UWANO, Zendo (2006) "The Accent of the Kuroshima-Oosato Dialect of Japanese", in Agris Timuska (ed.) *Proceedings of the 4th International Congress of Dialectologists and Geolinguists*, Riga, University of Latvia: 482-489. (査読有)

(21) 上野善道 (2006. 09) 「沖永良部島方言語

彙のアクセント資料(5)」『東京大学言語学論集』25: 249-297 (査読無)

(22) 上野善道 (2006. 09) 「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(4)」『アジア・アフリカの言語と言語学』1: 129-157 (査読有)

(23) 上野善道 (2006. 08) 「アルファベット頭文字語のアクセント」城生佰太郎博士還暦記念論文集編集委員会編『実験音声学と一般音声学』, 東京堂出版: 170-180 (査読無)

[学会発表] (計 15 件)

(1) 上野善道 (2009. 10. 10) 「アクセント史研究」人間文化研究機構 国立国語研究所設置記念 国際学術フォーラム「日本語研究の将来展望」の中のシンポジウム1「音声研究の将来」, 国立国語研究所

(2) UWANO, Zendo (2009.09.03) "On the reconstruction of Japanese Accents", International Workshop on "the History & Reconstruction of Japanese Accent", INALCO, Paris.

(3) UWANO, Zendo (2009.07.14) "Accentual Changes in the Yonaguni Dialect of Japanese", 2nd International Conference on Literature, Languages & Linguistics, Athens, Greece.

(4) 上野善道 (2008. 09. 21) 「日本語における句頭の上昇について」(On the Phrase-initial Rise in the Accent of Tokyo Japanese), 12th International Conference of the EAJS, Lecce, Italy.

(5) UWANO, Zendo (2008.08.06) "The Accent System of the Yonaguni Dialect of Japanese", 13th Methods Conference, University of Leeds, Great Britain.

(6) 原口庄輔, 上野善道, 藤村靖, 窪蘭晴夫 (2007. 11. 11) 「日本語のアクセントと音節・モーラ」日本英語学会第 25 回大会, シンポジウム「日本語の音節構造とプロゾディー：方法論の違いから何が見えてくるか」(司会 田中伸一) 名古屋大学東山キャンパス, 工学部 2 号館, *Conference Handbook 25*: 202-207.

(7) 上野善道 (2007. 02. 04) 「アクセントにおける式保存法則」第 2 回熱海音韻論フェスタ, KKR 熱海

(8) 上野善道 (2006. 09. 30) 「記述的研究からの視点 (共時的視点)」日本音声学会創立 80 周年記念フォーラム「音声研究の輝かしい展開を求めて——研究分野・研究方法からの提言——」順天堂大学

(9) UWANO, Zendo (2006.09.05) "History of the Two-Pattern Accent Systems of Southwest Kyushu Japanese", 5th Congress of Dialectology and Geolinguistics, Universidade do Minho, Braga, Portugal.

(10) 上野善道 (2006. 06. 02) 「言語学的・音声学的に見た沖縄の言語」早稲田大学琉球・沖縄研究所

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上野 善道 (UWANO, Zendo)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：50011375

(2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ( )

研究者番号：